



株式会社コムウエル

代表取締役社長 山川寅彦氏

哲学をもつて、あらゆる形式に応じる 冠婚葬祭業の雄



代表取締役社長 山川寅彦氏

取材・構成 ● 西原勝洋
経済評論家

冠婚葬祭の業界はいま、地盤の変動期にある。少子高齢化の中で進む「ジミ婚」あるいは家族葬の増大。とりわけ「小規模葬」の増大は、町の葬儀店を直撃し、身売り先を求める葬儀店が増えている。そうした中で、「互助会企業」である基本をしっかりと守りながら、新しいタイプの葬儀需要に応え、着実に地歩を固めているのが株式会社コムウエルだ。



コムウェルホール高円寺

互助会企業だから、
時代を生き続ける

町の葬儀店に特別の固定資産があるはずはない。葬儀を執り行うのに、特別のノウハウがあるわけでもない。そ

れなのに売りに出るのは、その地域での「のれん代」ともいえる。

のれん代とは、言い換えると、長い時間をかけて地域の商店街や町内会と築き上げてきた関係である。一朝一夕には手に入れることができないので、

売り物になるわけだ。しかし、それを新たに引き継ぐ企業には、信頼を裏切らない覚悟とブランド力が必要になる。その昔、

家族経営の中小の葬儀店は「月に1件か2件の葬儀があれば、楽に食べていける」といわれていたという。

ところが現在は、ご時世を反映してか家族葬や、病院から火葬場に直行する「直葬」が増えている。

町の葬儀店が淘汰されていく地盤の変動が起こるわ

けだ。

「新生活運動」——聞いたことがある人は、もうかなりの年配者だろう。

戦後、日本じゅうが貧しかった時代に、虚礼を廃止し、苦しい時は助け合おうという趣旨で始まった社会運動で、そこから発展したのが冠婚葬祭のための互助会となり、やがて監督官庁の監査をしっかりと受ける法人組織になった。

今日の大手冠婚葬祭互助会のほとんどは、そうした歴史を経てきた。

コムウェルの創業者である山川健氏も、親戚が新潟で営んでいた冠婚葬祭の互助会で7年間修業してから、1972年に東京・高円寺南で創業した。当時の社名は「株式会社中央互助センター」だった。

同社には直営の葬儀式場（「セレモニーホール」と呼ぶ）が、高円寺、松庵、板橋、町田、小平、西東京、東大和、篠崎、八王子に計9カ所ある。

それに加えて、公営斎場・葬儀会館・寺院会館・集会所など、1都3県に2000カ所を超える式場と提携のネットワークを結んでいる。

提携のネットワークは、病院、官公庁や大手企業にも伸びている。



コムウェルホール高円寺 外観

葬儀業とは、まさにネットワークの商売なのだ。

もちろん、「中央互助センター」が初めから、これだけの施設やネットワークを持っていただけではない。着実に歩みながら、関連事業に進出し、自前のホールを整えながら、ネットを拡大する行程だった。

ブライダルの貸衣裳から、
周辺事業へ展開を図る

婚礼貸衣裳と葬儀施行が事業の2本柱であり、同社の祖業は婚礼貸衣裳の



ブライダルサロンHANA

方である。結婚式場やホテルと専属契約を結び、貸衣裳の店を出す方式だ。現在では都心を中心に50のホテル、結婚式場と提携がある。そのうちの5つとは専属契約を結び、貸衣裳テナント店を出店している。また、新宿通り丸井の真向かいに、貸衣裳では都内最大級の大型路面店を運営している。このところ、毎年5000組のカップルに貸衣裳を提供している。

婚礼貸衣裳から派生して同社では、

結婚式の列席者が着る和装やフォーマルウェアをはじめ、子供が生まれた後に必要となる初宮参り、七五三、卒業袴、成人式衣裳など各種晴れ着のラインアップも取り揃えている。近年は、子会社を通じて、普段は着ない、着れないワンランク高いラインのゲストドレスまたはオケージョナルドレスといった分野のレンタルも手掛けるようになった。

その他、関連事業の展開を見てみよ



う。

1986年、霊園サービスに進出したのが、最初の踏み出しだった。

1990年には医療機関の救急患者輸送サービスに参入した。

輸送部門はその後、送迎用マイクロバスの運行や、福祉タクシー業務へと拡大した。

海外にも進出した。2010年、日本人の結婚式が多いハワイに大型衣裳店「HANAホルル」をオープンした。

その一方、新しい葬儀需要に、こまめに対応してきた。

いかなる冠婚葬祭でも「美しい心を持った日本人」のために

その指揮を執るのは2代目の山川寅彦社長だ。創業者は、修行先で職場結婚をした。その子供はいわば「冠婚葬祭業の申し子」だ。

山川社長は国学院高校を卒業して、米国に留学した。国学院は宮司の子弟が少なくない。その繋がりがコムウェルのネットワークの一部を形成している。アメリカから帰ると、父と同じ新潟の修行先に行き、冠婚葬

祭業の基本を学んだ。

新潟は、菩提寺がある人の比率が高い。葬儀も婚礼も地域文化の中に溶け込んでいる。

都市部において人間関係は希薄になり、葬儀は、個人的な出来事へと変化している。

そのためコムウェルでは、本人の意志や家族の希望を大切にし、宗派や会葬者の人数や規模、予算に応じて、さまざまなスタイルの葬儀を提供している。

「冠婚葬祭」という儀礼文化は、人が人としてあることの美しさを先祖から子孫に伝えていくための智慧であり、人生の意義や、生かされている幸せに気づかせてくれる機会です」と、山川社長は冠婚葬祭の哲学を語った。

コムウェル直営のホールのうち、東大和は小さな式場で家族葬専用。板橋はさらに小さく、通夜・告別式を行わず近親者だけの葬儀の専用施設だ。無駄に広い会場で、高い料金を請求するのは、互助会の精神に反するからだ。最近では「樹木葬」や「散骨」の要望も少なくない。

「樹木葬」とは、墓石の代わりに樹木を墓標として、墓地としての許可を得ている地に遺骨を埋葬する。一種の合葬であり、自分の家の墓がない人からの引き合いが多いという。



四季風松庵



ときに「散骨は故人の遺言によりハワイの海に」といった要望を受けることもある。コムウエルでは互助会業界の仲間と協働でハワイ散骨の商品づくりを企画しており、引き受けることができる。

高齢者施設に入居している人からは「事前相談」の要望が来る。

「私の葬儀は、こういう形式にしてほしい」というオーダーメイド葬儀の

相談である。

みんな引き受ける。

いかなる形式の葬儀でも「美しい心を持った善良な日本人」の行為として、その手伝いをするというのが、コムウエルの基本方針だからだ。

その1つが杉並区松庵のホール。遺族が湯河原から取り寄せた温泉を楽しむながら、個人を偲び葬儀を執り行う新形式の施設だ。

豊かな資金が背景にあるが、さらに手堅く地盤固めを

コムウエルは、法的には割賦販売法に基づく互助会を基盤とする株式会社だ。互助会だから、会員になることが原則だ。もち

ろん非会員でも受け付けるが、会員は保養施設の割引利用やイベントへの参加など特典がある。

掛け金（会費）は月10000円から50000円まで、1000円刻みの5コー

スで、期間は10年。その間に冠婚葬祭があれば、会員は特別料金の恩恵を受けける。満期後も、その権利は持続する。コムウエルが管理している会費は現在130億円に達するというから半端でない。しかし、その半額は法務局へ供託され、業界団体でつくった保証機関があり、定期的に経済産業省の監査も入るなど保全措置が取られている。ルートである互助会の伝統を大切にしつつ、新たな分野にも柔軟に打って



感謝デー ㊤終活セミナー ㊦人形供養

出ようとするコムウエル。経営理念を浸透させた同社は、社員のベクトルが一致した力強さを持っている。今後、さらなる飛躍への一步に注目したい。（にしはら かつひろ）

株式会社コムウエル

- 代表取締役社長 山川 寅彦
- 創業 昭和47年
- 資本金 9500万円
- 社員数 350名
- グループ売上高 50億円
- 事業内容 冠婚葬祭、専門店（パレール・ファッション関連）
- 本社 東京都杉並区阿佐谷南3-6-1
- 電話 03-5347-1300(代)
- <http://www.comwell.co.jp>

きらぼし銀行 阿佐ヶ谷支店会員